

グリーンフォース（福島県）

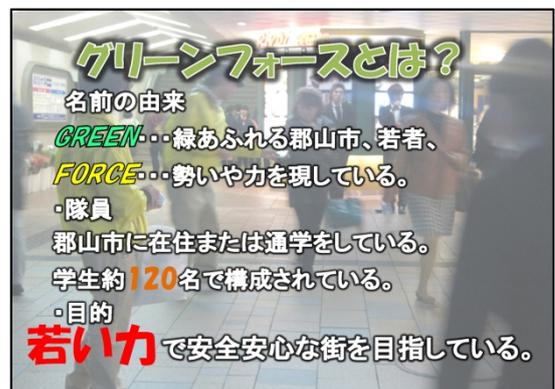
活動地域の紹介

初めに、私たちの活動拠点である郡山市について説明いたします。郡山市は、福島県のほぼ中央に位置しており、人口約 33 万人で、経済、工業、流通、交通の要所として発展してきました。福島県最大の経済圏で形成する、活気ある中核都市です。また、音楽活動にも力を入れており、東北のウィーンと呼ばれています。昨年の東日本大震災では、多くの家屋が被害を受けました。また、海沿いの地域浜通りでも、津波や原発の事故により大きな被害を受けました。郡山警察署管内では、約 2,000 人の被災住民を受け入れています。そこで、今年4年目を迎える、私たちグリーンフォースは、住民のみならず、被災された方々にも安全・安心を届けています。



団体の概要

「グリーンフォース」の名前の由来は、「グリーン」は緑あふれる郡山市と若者をイメージしており、「フォース」は勢いや力を表しています。隊員は郡山市内に住んでいるか、通学をしている学生約 120 名で構成されています。目的は、私たちが暮らしている郡山を、若い力で守るため、少年自らの視点で考え、犯罪防止、交通事故防止、非行防止に努めていくことです。また、その活動は、隊員同士や地域住民が交流を図り地域に密着した活動となるよう心掛けています。



活動内容

主に巡回パトロール、自転車盗難防止活動、有害環境浄化活動、研修活動、東日本大震災後における活動を行っています。

巡回パトロールでは、ちびっこ「うねめまつり」で、子どもたちに交通安全を直接呼び掛ける機会を持つことができました。プロ野球の試合では、置引き、車上ねらいなどの被害に遭う恐れがあることを呼び掛け、犯罪被害防止に努めました。



また、万引き件数を減らすために、店舗に伺い、万引き防止のポスターを配布しました。平成 22 年の郡山警察署管内の万引き件数は 331 件ありましたが、23 年は 285 件に減りました。この結果に、私たちの活動が少しでも貢献できたのなら、うれしく思います。

自転車に関する活動は、グリーンフォースの特有の活動で、最も力を入れています。ルールとマナーを守った自転車の運転方法の呼び掛けや交通安全に対する広報啓発活動を行っています。内容としましては、

毎月 26 日を「ツーロックの日」と決めていて、被害の多い駅前輪場やショッピングセンターなどで下校中の高校生を中心に呼び掛けています。

また、呼び掛けだけでなくとどまらず、自転車を点検して、しっかり二重ロックをしているかも確かめています。もし、施錠していない自転車があった場合、注意を促す紙を付けて盗難に遭わないように警告をしています。自転車の盗難も、23 年は 22 年より 120 件減少しています。まだまだ犯罪発生を減らせると思いますので、これからもいろいろな防犯活動に頑張っていきたいと思っています。



皆様は「割れ窓理論」をご存じですか。建物の窓が割れているのを放置すると、社会への関心が低いということになり、犯罪が起きやすい環境を作り出してしまいます。実際にごみが落ちていたり、落書きがある所では犯罪が多発することが明らかになっています。

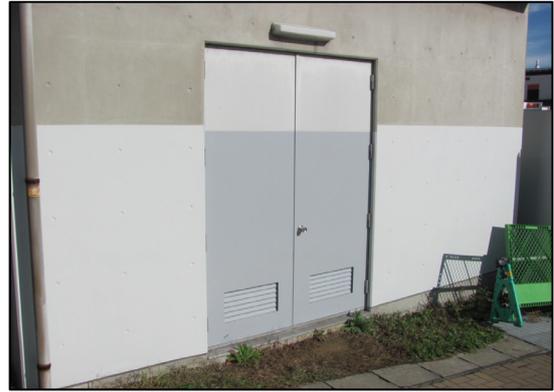


そこで、私たちは有害環境浄化活動として地域のごみ拾いをしています。そして、先ほどの「割れ窓理論」に従って、犯罪の起きにくい環境を作っています。

具体的には毎年1回、塗装業界の支援を受け、少年警察ボランティア、警察職員と合同で郡山駅前、繁華街、橋桁、地下歩道などで落書き消しを実施してきました。私は落書き消しの日にお気に入りの服を着て参加してしまいました。白い服でしたので汚れてしまわないかと心配でした。直に浴びる太陽と慣れない作業、

服の心配で大変な仕事でした。しかし、町がきれいになっていく様子を見ると、とてもすがすがしい気持ち

ちになりました。ほかのボランティアの人の協力もあり、とても有意義な時間となりました。



こうした活動により、管内の落書き箇所は減少しています。地域住民からも少年を取り巻く環境浄化に役立っていると高い評価をいただいています。

東日本大震災では、命の大切さを痛感したことから、郡山消防署の方に講師を依頼し、救命講習を受講しました。胸骨圧迫のやり方や AED の使い方を教わり、緊急時のときでもしっかり行動できるように自信を持つことができました。

また、グリーンフォース隊員の中には警察官志望の者が多いので、警察署で警察官の仕事内容についてお話を聞く機会を設けていただきました。そこでは指紋採取を行ったり、パトカーの装備品を見ることができました。警察官の業務でわからない部分もありましたが、とても身近に感じることができ貴重な体験となりました。



東日本大震災後における活動は、主に富岡町と川内村の被災者の避難所となっていた、ビッグパレットふくしまで開催された夏祭りでの、子どもたちに対する呼び掛けです。皆様は「イカのおすし」という言葉をご存じですか。「イカのおすし」とは、「行かない」「乗らない」「大声で叫ぶ」「すぐに逃げ出す」「知らせる」の合い言葉です。この合い言葉を使って、子どもたちに安全・安心の意識を持ってもらうことができました。このような祭りでも人前に立つという機会が少なかった私たちは、とても緊張していました。しかし、去年の隊長のネモトさんの堂々としていた姿が私の心に焼き付いて、それを思い出すことで活動に対してますますやる気が起きました。

学童クラブ訪問では、原発の被害で子どもたちの屋外活動が制限されるという状況が続いているため、私たちグリーンフォースは、仮設住宅の学童クラブでも簡単に体を動かせる遊びを考えました。最初は人見知りをしていた子どもたちでしたが、卓球、糸電話、プロレス、体操、節分の豆まきなどをすることで、親しく遊ぶことができました。7回訪問し、帰り際に子ども



たちから「また来てね」と声を掛けられ、迎えに来た保護者からも感謝の言葉をいただきました。小さい子と遊ぶのは久しぶりで、私も幼い頃に戻ったように遊ぶことができました。しかし、子どもたちは私を休ませてくれず、体力の衰えを感じました。

また、仮設住宅集会所に開設された、「おだがいさま交番分所」では、住民、警察官、地域ボランティアが集まり、交流を図ることができました。そこでは、少年警察ボランティアの昔話を聞く機会があり、みんな興味津々で聞いていました。さらに、仮設住宅の住民と共に花の苗植えを実施しました。私は、花の苗植えをすることは小学生のとき以来でした。おばあさんやおじさんが優しく教えてくれて、きれいに植えることができました。住民が笑顔になっていく姿を見て、とても感動しました。



今後の課題

今後の活動の課題は、自主的・自発的活動の推進です。私たちグリーンフォースは今年 120 名の隊員が集まりました。学校ごとの活動ができるほど集まりましたので、各学校単位でのグリーンフォース活動も積極的に行っていきたいと思っています。

それには、少年自らの視点で考えていくという目的を達成するために隊員相互で話し合い、意見を出し合って活動していきたいと思っています。具体的には、今年からリーダー会を開き、学校ごとのリーダーが集まって積極的にミーティングをしていきたいと思っています。

地域の絆づくりは、仮設住宅の訪問を継続するなど、子どもたちや住民との触れ合いを深めていきたいと思っています。また、地域ボランティアと連携をして諸活動を実施することにより、幅広い年代の住民とコミュニケーションを深め、地域の絆づくりに努めていきたいと思っています。

これまでの活動の経験をもとに、これからも社会貢献をしていきたいと思っています。

質疑応答

●質問 グリーンフォースは、最初はどのようにしてできたのですか。

○回答 4年前から活動している団体で、私は今年2年目です。福島県いわき市が地元で、昨年、郡山で独り暮らしを始めてグリーンフォースの名前を知りました。団体は警察に支援していただきつついただきました。

●質問 活動を始めて、将来の自分自身の生き方にも通じるかなと思うようなことは何かありますか。

○回答 このようなフォーラムで発表する機会を与えてもらい、とても貴重な体験をさせていただきました。このような、人のやったことのないことを今回はさせてもらい、良い経験になりました。私は将来警察官になりたいと思っていますので、このような経験を生かして、地域住民との交流を図って安全・安心を届けたいなどと、将来的に考えています。